

＜Backup Exec の管理コンソールからライセンスタイプを切り替えるには＞

Backup Exec のライセンスタイプには BE Simple のインスタンスライセンスと容量ライセンス（サブスクリプション）をはじめ、従来の永続ライセンス（単体、Bronze/Silver/Gold のインスタンス・容量ライセンス、V-Ray Edition）を提供しておりますが、Backup Exec サーバ単体で有効にできるライセンスタイプは 1 つだけです。同時に複数のライセンスタイプを 1 台の Backup Exec サーバで有効にすることはできません。

なお、Simple ライセンスへ移行するためのライセンスは提供しておりません。既存ライセンスご契約情報（ご契約番号、保守期限、お客様情報など）は Simple へ切り替え（移行、引き継ぎ）できません。Simple ライセンスの新規ご購入が必要となります。十分にご注意ください。

BE Simple (インスタンス) ライセンスタイプ切り替え可否

主な既存のライセンスタイプ	22.x 以降の全バージョン (22.x 、23.0 、24.0 、25.0)	21.x 以下の旧バージョン全て (21.x 、20.x 、16.x など)
Bronze 、Silver 、Gold (インスタンスまたは容量)	○	×
単体ライセンス (Custom Edition)	○	×
V-Ray Edition	○	×

"×" の場合、切り替え可能なバージョンへアップグレードまたは新規インストールにて切り替え可能です。
(最新バージョンご使用を推奨)

BE Simple (容量) ライセンスタイプ切り替え可否

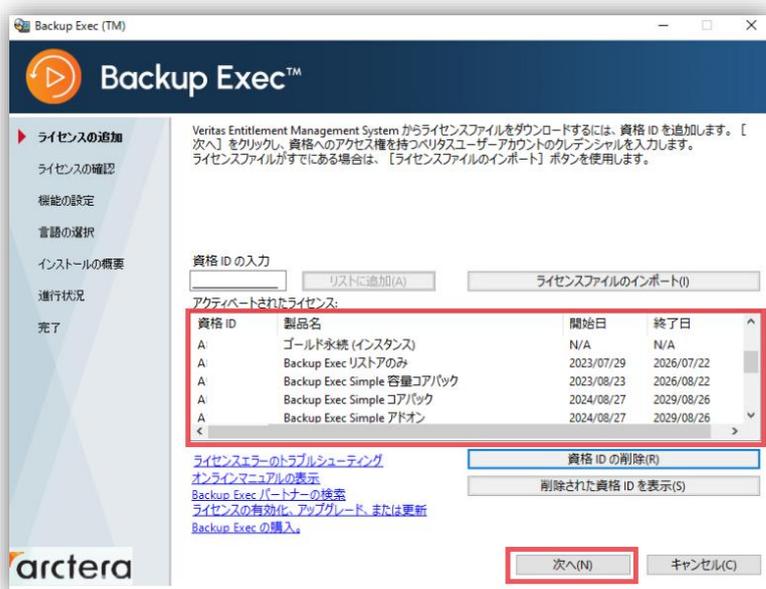
主な既存のライセンスタイプ	24.0 以降の全バージョン (24.0 、25.0)	23.0 以下の旧バージョン全て (23.0 、22.x など)
Bronze 、Silver 、Gold (インスタンスまたは容量)	○	×
単体ライセンス (Custom Edition)	○	×
V-Ray Edition	○	×

"×" の場合、切り替え可能なバージョンへアップグレードまたは新規インストールにて切り替え可能です。
(最新バージョンご使用を推奨)

複数のライセンスタイプのライセンスキーファイルを Backup Exec サーバに導入している場合、以下の手順に沿って、ライセンスタイプを手動で切り替えることができます。

1. ライセンスファイル (.slf ファイル) をインポート (読み込む) します。インポートすると、「アクティベートされたライセンス」の欄にライセンスが表示されます。「次へ」をクリックします。

画面例 1

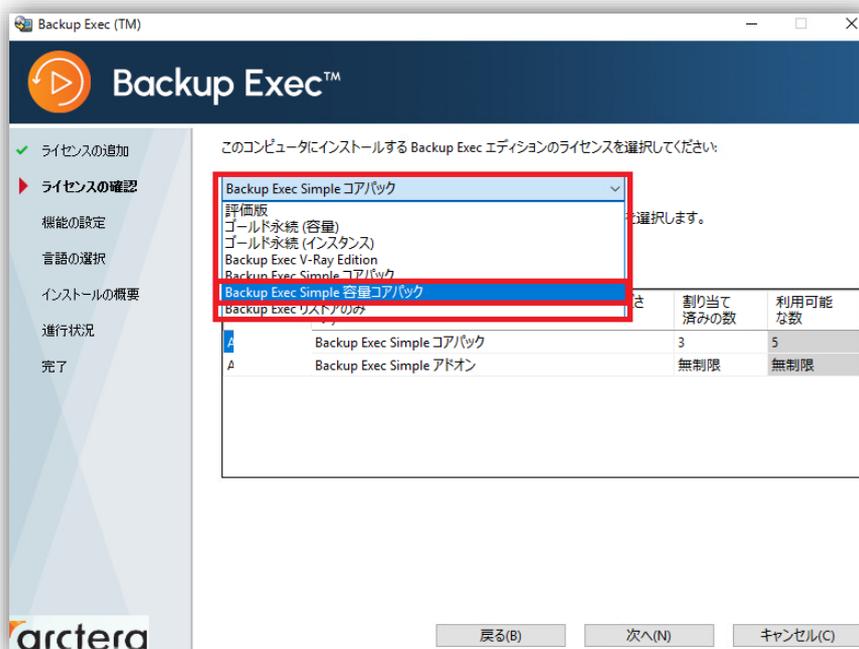
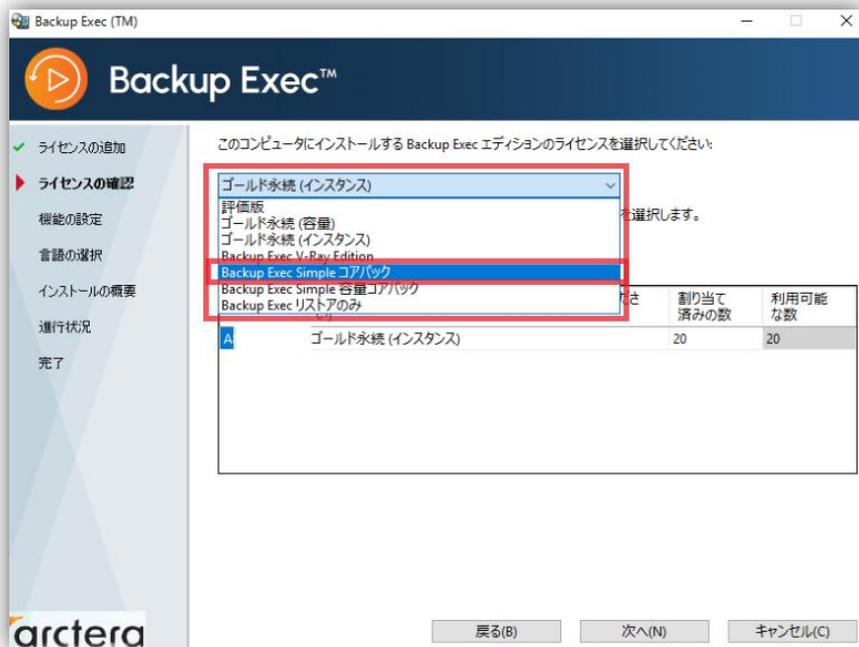


画面例 2 ご参考まで：永続ライセンスに紐づけられた保守 (maintenance) は別の行に表示されます



2. 使用したい Backup Exec エディションのライセンス（ライセンスタイプ）を選択します。ここでは「Backup Exec Simple コアパック」（インスタンスライセンス）または「Backup Exec Simple 容量コアパック」を選んでいきます。

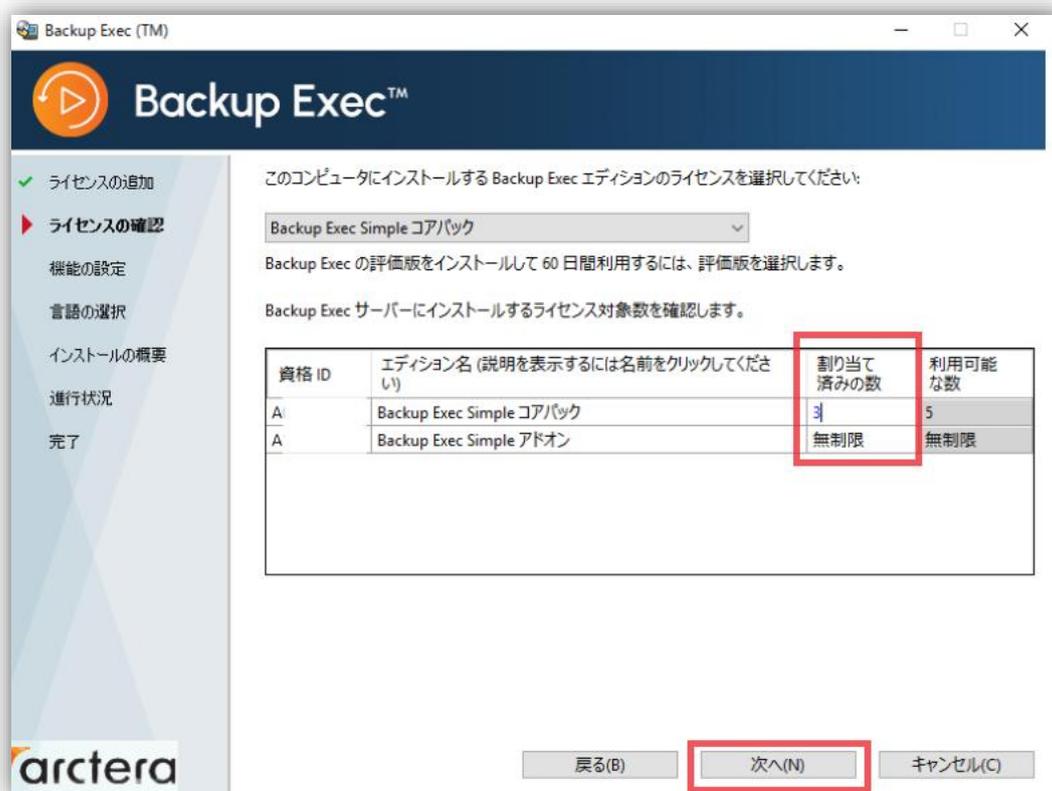
画面例 3 インスタンスライセンスと容量ライセンスの例

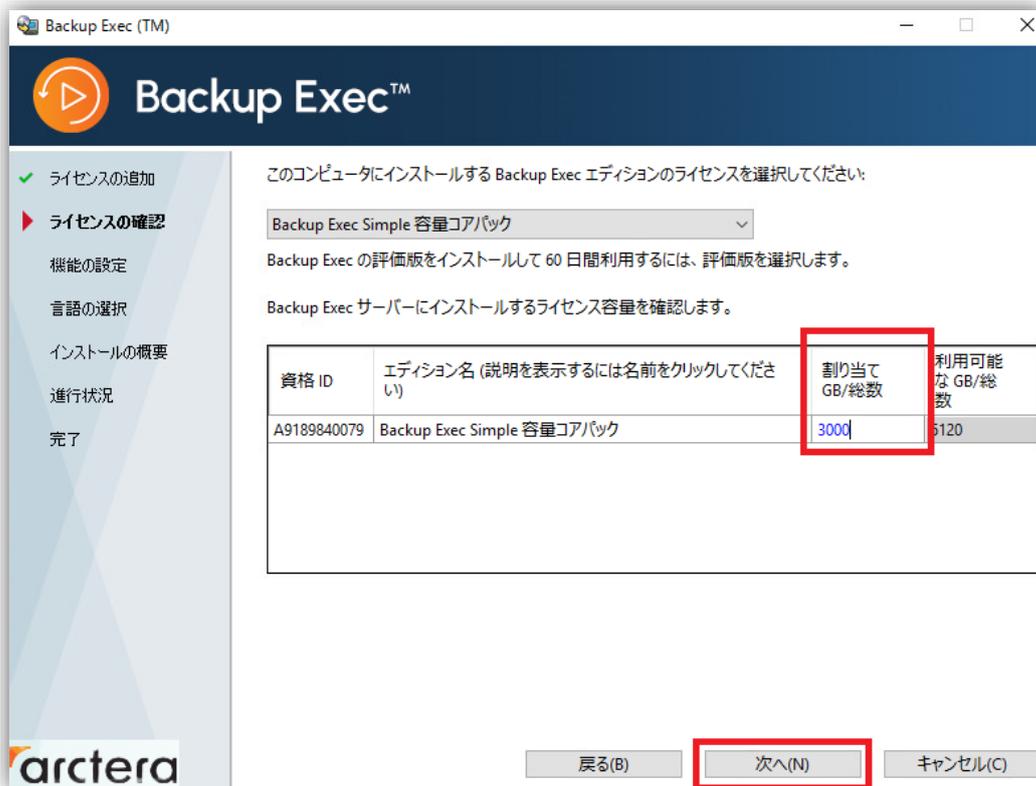


3. この Backup Exec サーバで管理可能なインスタンス数（容量ライセンスの場合は、GB/総数）を指定します。Backup Exec Simple コアパックライセンス（インスタンス）には、5 インスタンスが含まれているので、最大 5 インスタンスをこの Backup Exec サーバで管理することができます。ただしすべてのインスタンスをこの Backup Exec サーバに割り当てる必要はなく、この値を減らして、残りを将来拡張用の予備として残すことも可能です。また同じ拠点内で、複数の Backup Exec サーバを使用する場合、複数の Backup Exec サーバ間でインスタンス（容量ライセンスの場合は GB 数）を分配することが可能です。例えば、Backup Exec サーバ #1 には、3 インスタンスを割り当て、Backup Exec サーバ #2 には 2 インスタンスを割り当てることができます。この場合、同じコアパックのライセンスキーファイルをそれぞれの Backup Exec サーバに当てて、割り当ての数を調整します。尚、最低 1 インスタンス(容量ライセンスの場合、1GB)の割り当てが必要となります。

ここで設定した「割り当て済みの数」を Backup Exec サーバのライセンスチェック機能でライセンスチェックを行います。この数を超えると、ライセンス違反のアラート通知が行われ、一定期間（30 日）ライセンス違反の状態製品を使い続けると、最終的にはバックアップを行うことができなくなります（リストアは可）。

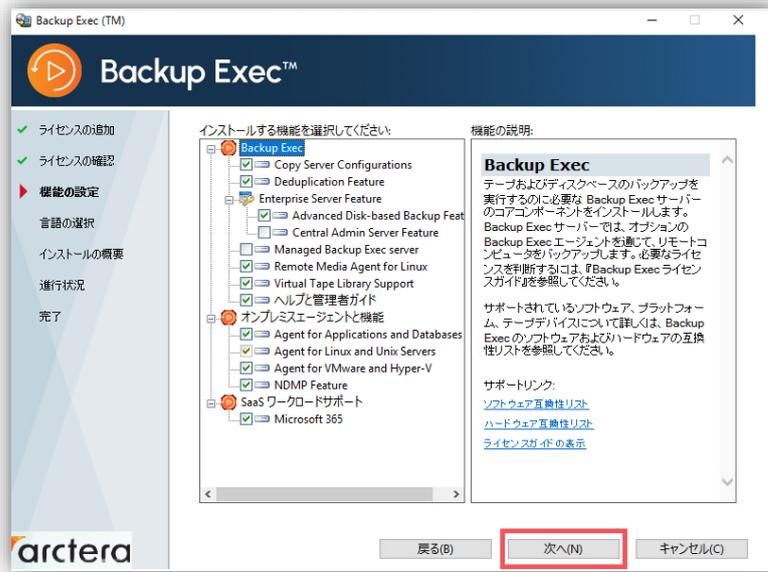
画面例 4 インスタンスライセンスと容量ライセンスの例





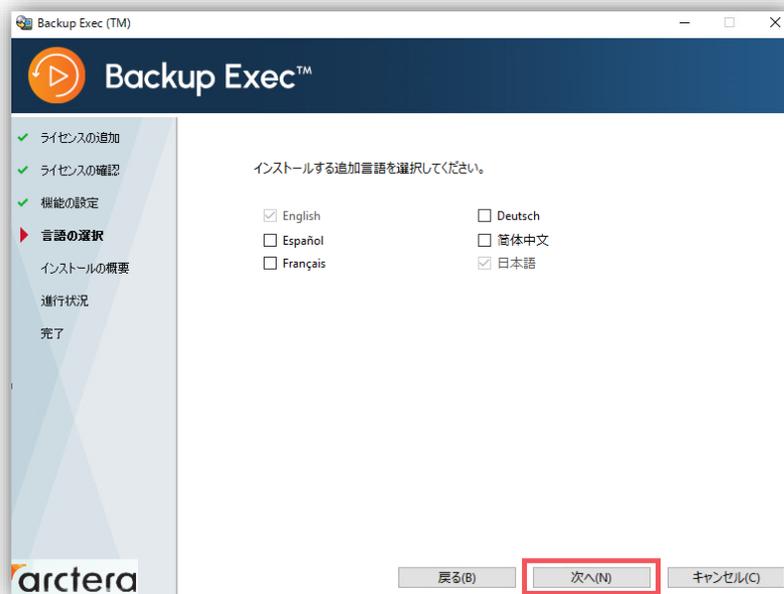
4. この後このエディションに与えられた機能を有効また無効にすることができます。通常はこのまま「次へ」を進みますが、集中管理サーバ機能（Central Admin Server Feature）は、デフォルトでは有効となっていないため、使用する場合は有効にしておく必要があります。

画面例 5



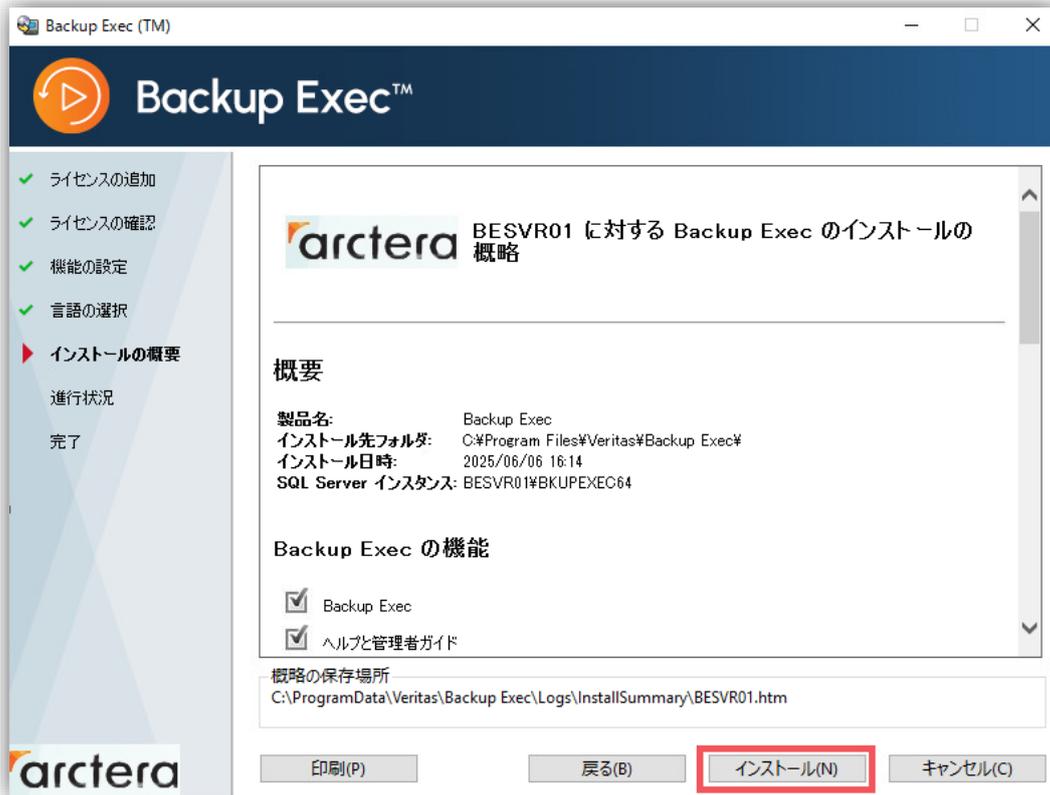
5. ここからはそのまま「次へ」をクリックして続けます。

画面例 6



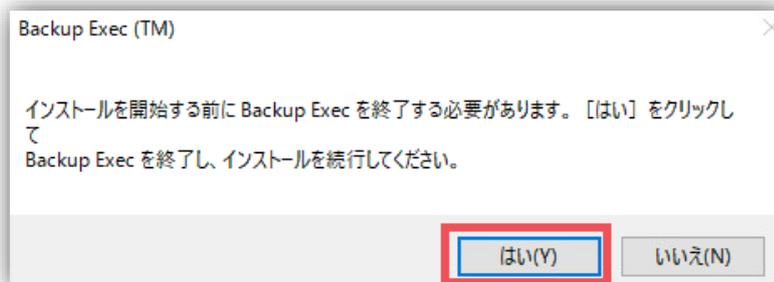
6. 最後に行った設定を確認し、問題がなければ「インストール」を選びます。「インストール」を選ばないと、先ほど選択したライセンスエディションが有効となりませんのでご注意ください。

画面例 7



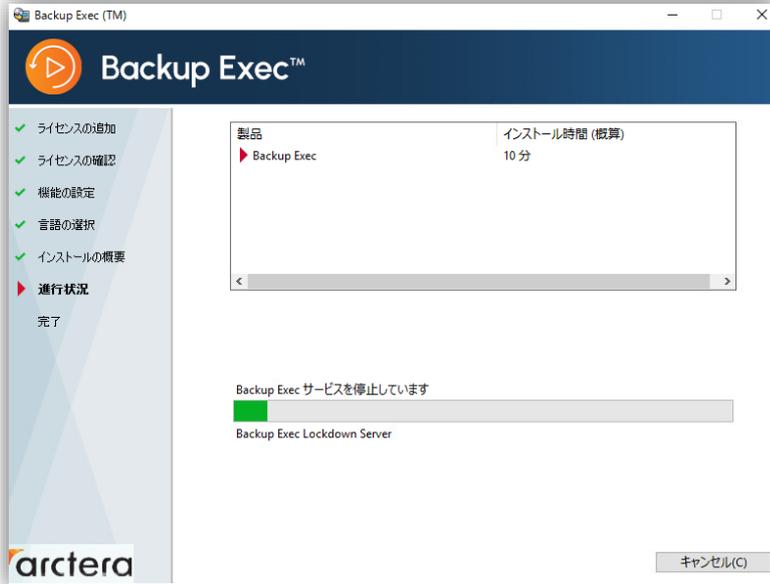
7. Backup Exec サービスの再起動が必要となります（OS の再起動は不要です）。「はい」をクリックします。

画面例 8



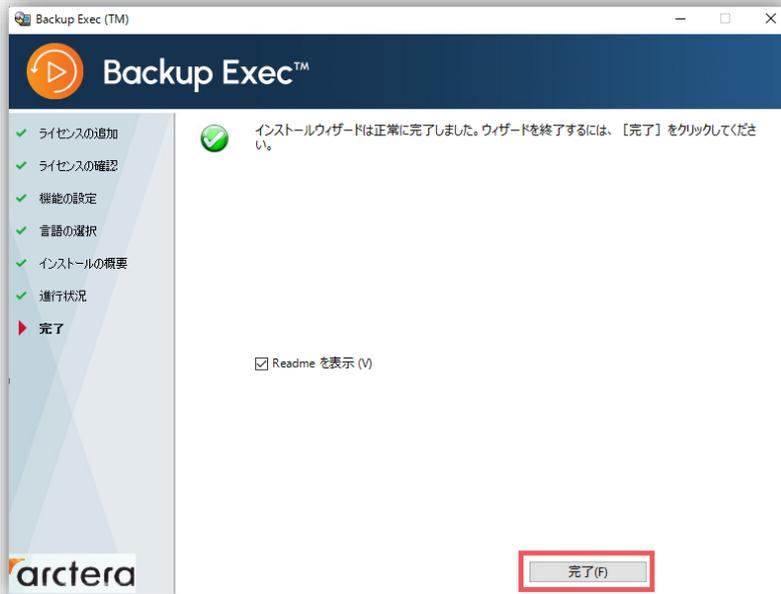
8. 環境にもよりますが、インストールとサービスの再起動に最大 10 分ほどかかる場合があります。しばらく待ちます。

画面例 9



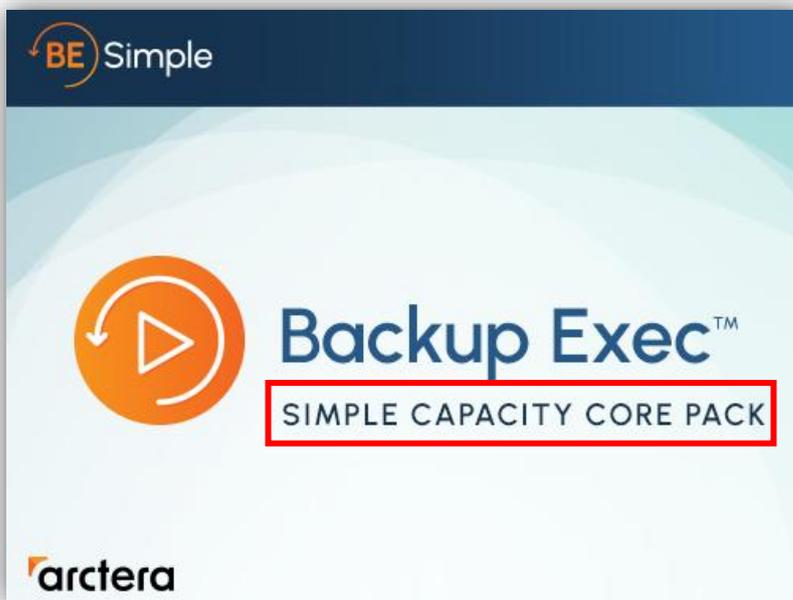
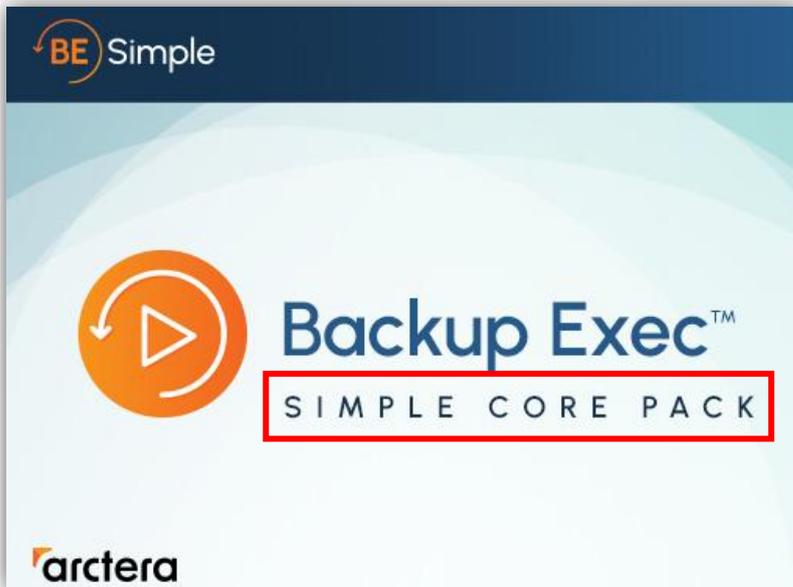
9. インストールが完了すると以下の画面が表示されます。「完了」をクリックします。

画面例 10



10. 再度 Backup Exec の管理コンソールを開くと、まず起動時に表示されるスプラッシュ画面から適用されているライセンスタイプを確認することができます。

画面例 11 インスタンスライセンスと容量ライセンスの例

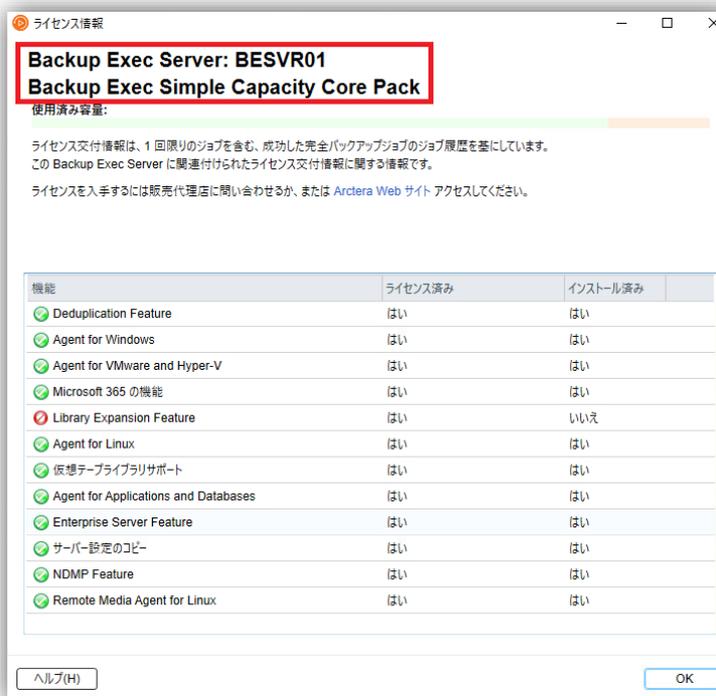
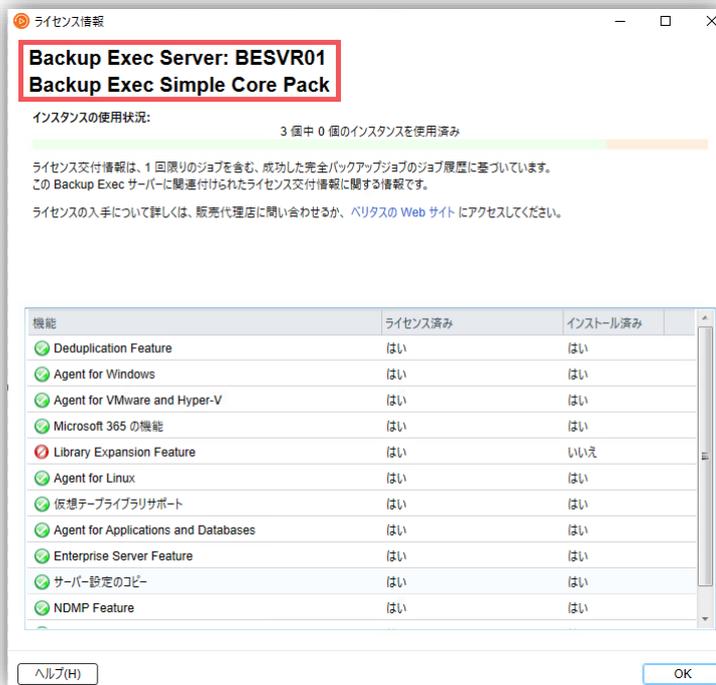


そして、「インストールとライセンス」 → 「ライセンス情報」を選択すると、新しいライセンスタイプが適用されていることが確認できます

画面例 12

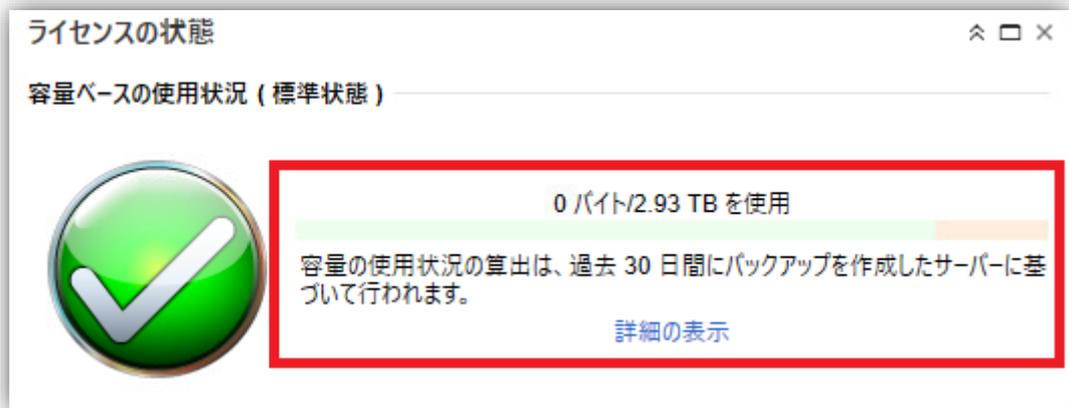
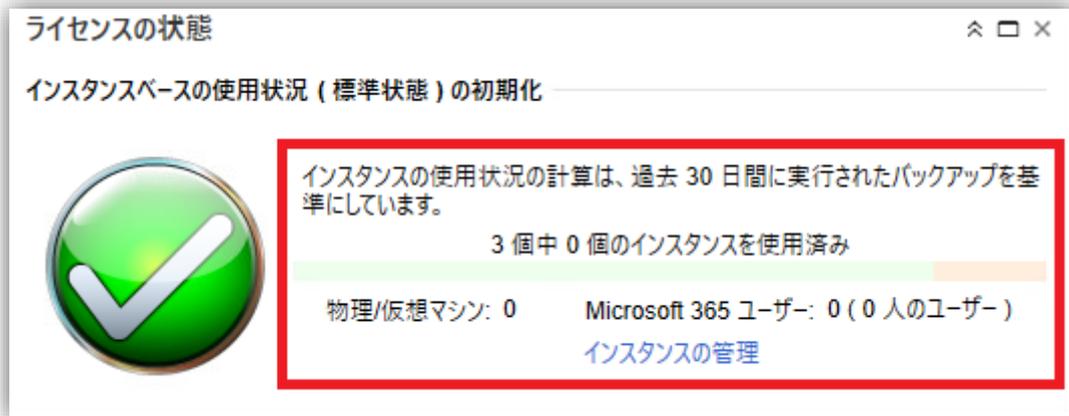


画面例 13 インスタンスライセンスと容量ライセンスの例



1 1 . 割り当てたインスタンス数または容量もこのように確認できます。

画面例 14 インスタンスライセンスと容量ライセンスの例



手順は以上となります。

ポイントとしては、複数のライセンスタイプを保有していても、ライセンスキーファイルをインポートしただけでは有効にならず、また Backup Exec サーバ単体で実行できるライセンスタイプは一つのみとなります。複数のライセンスタイプを保有して、切り替える場合は必ず上記の手順を行う必要があります。